

(第1面)

<p>産業廃棄物処理計画書</p> <p style="text-align: right;">令和5年4月25日</p> <p>(あて先) さいたま市長</p> <p style="text-align: right;">提出者 住 所 さいたま市桜区下大久保新田1200-16 氏 名 株式会社シヴィルサクラ 代表取締役 土屋 光一 電話番号 048-858-8889</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	株式会社シヴィルサクラ
事業場の所在地	さいたま市桜区下大久保新田1200-16
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	総合工事業
② 事業の規模	460,000 (千円)
③ 従業員数	11名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	アスファルト・コンクリート殻類→破砕→再生砕石・合材として再生利用 木くず →破砕→チップとして再生利用 建設汚泥 →脱水→盛土材として再生利用 繊維くず →破砕・焼却・減容→再生原料・再生燃料 廃プラ類 →破砕→燃料化として利用 混合廃棄物 →破砕・焼却・減容→再生原料・再生燃料 石綿含有 →処分場にて埋立 廃石膏ボード→分別→原材料として再利用

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
(管理体制図)	
<pre>graph TD; A[工事部長] --> B[排出担当者]; B --> C[下請負業者]; C --> D[収集運搬委託業者]; D --> E[処理委託業者];</pre>	

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	排 出 量	1100 t	
	(これまでに実施した取組) 産業廃棄物を排出する工事のすべてが公共工事なので、基本的な排出抑制は発注者の設計に左右されてしまう。自社管理項目としては、資材ロスの削減及び仮設材の再利用。そして産業廃棄物として一般廃棄物の分別に努めている。		
② 計画	【目標】令和5年度		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	排 出 量	1000 t	2 t
	(今後実施する予定の取組) 引き続き、取り込みを継続する。		

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ほとんどの廃棄物が分別された状態で処分先に排出されている。現場での分別が困難な廃棄物は、中間処理業者に分別を委託している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現場での分別が困難な廃棄物においても分別を徹底する。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】 無し		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組) 該当なし		
② 計画	【目標】 無し		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量		t
	(今後実施する予定の取組) 該当なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】 無し		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	
(これまでに実施した取組) 該当なし			
② 計画	【目標】 無し		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	
(今後実施する予定の取組) 該当なし			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】 無し		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	
	(これまでに実施した取組) 該当なし		
② 計画	【目標】 無し		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	
	(今後実施する予定の取組) 該当なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類他	
	全処理委託量	1100 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	1100 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 委託基準に基づく、委託可能な処理業者を選択している。 発生品目に応じて適正な再生利用業者への処理委託の選定・契約		

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	全処理委託量	1000 t	2 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	1000 t	2 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>優良認定業者の選定。 発生品目に応じて適正な再生利用業者への処理委託の選定・契約</p>		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。